

a 学校教育目標	将来をたくましく切り拓いていく力を身につけた生徒の育成	b 経営理念 ミッション・ビジョン	【ミッション】(自校の使命) 社会のために役立つ志を抱く生徒の育成 【ビジョン】(自校の将来像) 信頼される学校 (保護者「通わせて良かった」、生徒「ここで学んで良かった」、地域「母校として誇れる学校」)
----------	-----------------------------	----------------------	---

評価計画				自己評価					改善方針	学校関係者評価					
c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	10月	2月	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	n 改善方針	l 評価			m コメント	
					h 達成値	h 達成値					イ	ロ	ハ		
確かな学力	主体的に学ぶ生徒の育成	授業改善の推進	①「まとめや振り返りでは、R80を使って、相手に伝わりやすい振り返りを行っている」と回答する生徒の割合【R6-89.7%】	90%	87%	90%	100%	A	各授業での積み重ねが、R80を使った振り返りに対する生徒の意識の向上につながっている。一方、教師自身が書かせたいR80をより明確にしたり、相手意識をもって表現させることに課題があると考えられる。	R80の取り組みについて校内でシェアするなどの研修を通して、授業改善及び生徒の振り返りの質の向上を図る。また、授業時間内でのR80のシェアを確実にし、相手意識をもった記述の充実を図る。	○			・家庭学習を確実にやりきることを小学校とも連携し、学力の定着を目指してください。 ・R80の取り組みは、小学校からの積み重ねで年々、的を射た理解が浸透してきていると感じる。 ・全体的に学ぶ姿勢は向上していると感じました。 ・数値目標は達成できなかったが、ポトムアップは確実にできていると感じる。学年間で差異はあるものの学力テストで概ね全国平均を上回っており、原因も把握されているようなので今後の取組に期待したい。	
		基礎学力の向上	②「授業構想シート」を活用した授業づくり ③学力調査の結果を活用した授業改善	70%	57%	58%	83%	B	達成値はあまり変化がないが、平均点から10p以上下回る生徒の割合は29.1%から17.7%と改善が見られた。一方、10p以下下回る生徒の割合については、学年間で差が大きい。	学力定着に向けて、家庭学習とのつながりをもたせるとともに、課題を確実にやりきるよう指導する。補充学習の体制の充実を図り、基礎学力の定着を図る。	○				
豊かな心	自他を認め合い、共に高まる生徒の育成	発達支持的生徒指導の推進	①異年齢集団活動、生徒の自主的活動の充実 ・全校縦割による清掃活動や各種行事等の充実 ・学校行事、生徒会活動の充実	自己肯定感・自己有用感に関する質問において肯定的評価の割合【R6-86%】	90%	78%	77%	86%	B	生徒会が中心になり、自主的・主体的な活動が定着。行事や道徳・学活・総合での体験的な活動等において、生徒同士での肯定的相互評価を文字で視覚的に伝えたり、口頭で伝える場を設定する等の要因があげられる。	こころ7～8年の数値は高い位置(以前は6割程度)で維持できている。iチェックのデータもリンクさせ、SCとの連携を行い、生徒の個別面談等の場面を増やす。個別の丁寧な対応や指導を行う。	○			・生徒数が少ないゆえの異年齢、縦割活動は不可欠だと思う。生徒会中心の活動が定着しているのも生徒の主体的な協力の賜物であると思われる。 ・主体性、積極性を引き出すことができる活動の設定を通して引き続き自己有用感・肯定感を高めてください。
		社会人としての自覚の醸成	②奉仕活動・社会貢献活動の推進 ・献血ボランティア活動・地域や校内ボランティア活動の充実 ・校区内小学校との清掃活動	「主体的にボランティア活動に取り組んでいる」と回答する生徒の割合【R6-69%】	80%	57%	63%	79%	C	今年度も献血ボランティアを実施した。校内では旗揚げ・フラワーボランティア活動を実施した。また、小中合同での地域清掃が実施できたことも良かった。	生徒会を中心に活動が定着している。様々な角度から肯定的評価を返し、活動を活性化させたい。献血セミナーの実施や活動の様子を校内で写真や体験の感想を掲示、スライドショーでの報告等を行い、魅力を伝える情報発信を充実させていきたい。	○			・数値目標が達成できずC評価となっているが、数字上のことであり、取組自体が誤った方向性ではなかったことを考慮すべきであろう。子供たちが積極的にボランティア活動に参加する意識を育て、成果が可視化できるように期待したい。
健やかな体	自らの健康を自ら管理できる生徒の育成	体力・運動能力の向上、食育の推進、健康的な生活習慣の確立	①新体力テスト結果の分析に基づく体力向上の取組 ②「弁当の日」の取組 ③基本的な生活習慣の確立	①平日睡眠7時間以上の生徒の割合【R6-83%】	90%	85%	87%	97%	B	生徒自身に早く寝たいという気持ちがあっても、課題や習い事に追われ、就寝の目標時間に眠れていない生徒が多いようである。三原市「金のルール」チャレンジウィークでは、保護者の声かけもありつつも早く寝ることができたか答える生徒が多かった。	三原市「金のルール」チャレンジウィークで睡眠時間が短い生徒が保健室で体調不良を訴えることが多く、メディアの利用時間も長い。保健室来室時に積極的に個別の保健指導を行い、生徒自身が自らの課題を考えられるよう取り組みを進めていきたい。	○			・メディアの長時間利用については小学校でも課題で、子供と保護者の両者に啓発する必要性をあらためて感じた。 ・保護者が過程できちんと自分の子供の様子を見ていれば解決できるようなのでは、と思う。 ・弁当の日の取組はとても興味があります。いろんなことを考えながら一人一人の思いが詰まった作品にはわくわくします。
信頼される学校	教職員の職務遂行意欲の向上	時間外勤務時間の縮減	①働き方改革の推進 ・部活動休養日、定時退校日の徹底 ②業務の効率化 ③各種行事の見直し	①生徒の完全下校後、2時間10分以内に退校する教職員の割合【R6-75%】	90%	73%	74%	82%	B	4月～1月の月平均3.7人が時間外勤務45時間を超えている。依然として固定化傾向がみられる。全体としては、時間外勤務平均はR6年度36時間8分に対して、R7年度は32時間59分であり、昨年度との比較としては、減っている。	勤務時間を意識した働き方について、教職員の意識は年々高まっている。しかし、行事等の取組期間は、担当者はどうしても時間を超えてしまう。今後、時間外勤務の時間や指針が新たなため、さらなる意識改革に努める。	○			・昨年の数値よりは減少したようであるが、数値目標は達成できなかった。その原因は把握されているようであるし、教職員の超過勤務に関しては、今後、新たな指針になるよう経過を見たい。 ・少しずつ改善が見られるのは良い傾向だと思います。限られた時間の中でよりよいパフォーマンスが発揮できる環境づくりに向け、努力されていることが伝わります。

【j:自己評価 評価】

A:100≦(目標達成) B:80≦(ほぼ達成)<100
C:60≦(もう少し)<80 D:(できていない)<60

【l:学校関係者評価 評価】

イ:自己評価は適正である。ロ:自己評価は適正でない。
ハ:分からない。